

3 都市型火災の特徴

都市部は、人口および建築物、ライフライン、交通機関等が集中し、高密度に整備されています。そのため、小規模な火災があつという間に大規模な火災に発展することがあります。特に、大都市部には、高層ビル、地下街、ターミナル駅等、不特定多数の人々が利用する施設が集まっていて、これらの場所で人的被害が大量に発生することも予想されます。また、木造住宅密集地域では、延焼による被害の拡大や、それに伴う避難の必要が発生することも予想されます。



平成7年阪神・淡路大震災の延焼被害の様子
写真出典：財団法人消防科学総合センター〈災害写真データベース〉より

避難のポイント

- 天井に火が燃え移ったときが避難の目安。
- 避難は高齢者、子供、病人を優先する。
- 服装や持ち物にこだわらず、早く避難する。
- 煙の中で逃げるときは、できるだけ姿勢を低くする。
- いったん逃げ出したら、再び中には戻らない。
- 逃げ遅れた人がいるときは、近くの消防隊にすぐに知らせる。

✓ わが家の防災チェック 火災対策チェック

- 住宅用火災警報器を各部屋に設置している。
- 消火器の使い方を知っている。
- 都市型火災の特徴を知っている。
- 火災から避難するときのポイントを知っている。



V 救急対応



1 応急手当のポイント

災害が起これば、心肺蘇生法やAEDが必要な場面について遭遇するかわかりません。いざというときのために、応急手当の方法を覚えておきましょう。

人が倒れていたら…

1. 意識があるか調べる

呼びかけて返事をするか、話はできるか、手足を動かしているか、痛みに対して反応はあるか、などを調べる。

2. 協力してくれる人を探す

意識の障害があった場合は、すぐその場で救急車を呼んでもらう、または大声で周りの人を呼ぶ。

3. 5つの観察と応急手当

1. 周囲の安全の確保

倒れている場所が安全かどうかを確認、危険な場所なら安全な場所へ移動する。

2. 出血の確認

大きな出血があったらすぐ止血する。

→ 詳細は29ページへ

3. 救急車とAEDの手配

意識の有無を確認、意識がなければ近くの人に協力を求め、救急車とAEDを手配する。

5. 胸骨圧迫と人工呼吸

普段通りの呼吸がなければ胸骨圧迫を30回、人工呼吸を2回行い、気道を確保する。

→ 詳細は27ページへ

4. 呼吸の観察

胸と腹部の動きを見て、普段通りの呼吸をしているか、10秒以内に確認する。

- 口の中に何か詰まっていたら取り除き、血液や唾液は拭き取る。
- 呼びかけても反応がないときは、むやみに起こしたり、揺すったりしない。
- 気道を確保するときは、頭を無理に後ろに反らさない。